



山口彦衛さん
(笹川・61歳)

田形 功さん
(上・66歳)

道下豊一さん
(鶴川・87歳)

シリーズ
人間の間に
Vol.10

合併に力を尽くした3人

～第1回能登町顕彰条例に基づく表彰式～

平 成18年4月1日に施行された「能登町顕彰条例」は、町の振興発展に寄与された方を顕彰することについて定めたものです。条例では、その目的を「町民の創意研究の美風を啓発し、町民生活の向上を図るとともに町産業の開発振興等を期する」とされています。また顕彰の条件として次の7つが定められています。

- ① 町の自治に関して功績顕著なもの
- ② 公共事業について顕著な功労の認められるもの
- ③ 産業の開発と進展改善に顕著な功績の認められるもの
- ④ 保健衛生および社会福祉の増進に顕著な功績の認められるもの
- ⑤ 教育、文化またはスポーツの振興に寄与し、町民の模範と認められるもの
- ⑥ 町のため多額の私財を寄附したものの
- ⑦ 町長において顕彰の必要があると認められるもの

こ の顕彰条例に基づく第1回目の表彰式が2月28日に行われました。式には、県議会議員、町議会議員、各種団体長ら約50人が集まり3人をお祝いしました。今回表彰された3人は、誕生間もない能登町の第1回目の顕彰ということで、能登町誕生に対し特に功績のある方として選ばれました。顕彰を公平・適正に行うために議会議員や各種団体役員を委員として設置される顕彰審議会においても、全会一致で賛成されました。



道下豊一 (みちした・とよいち)

大正9年3月25日生 鶴川

道下さんは、昭和30年に旧鶴川町議会議員に初当選し、昭和31年・平成17年と2度の合併を経験しました。議会議員として12期47年7カ月務め、豊富な経験と卓越した見識で地方自治と町政発展に貢献しました。

この間、能登町議会議長、議会運営委員長、産業建設常任委員長、教育民生常任委員会副委員長などを歴任しました。また、町営住宅の整備、小中学校の改築、国鉄能登線の開通など住民福祉の向上と地域の発展に寄与しました。

合併協議では、協議会委員の良き相談役として、能登町誕生に貢献しました。道下さんは「みなさんのご指導があったことを感謝します。今後は少しでも町のために力を尽くせる日々を送りたい」と感謝の言葉を述べました。

田形 功 (たがた・いさお)

昭和15年10月26日生 上

田形さんは、昭和34年7月に内浦町書記に採用され、平成8年から収入役、平成10年からは助役として多年にわたり行政に携わり、平成15年8月27日から閉町まで内浦町長として豊富な行政経験と卓越した見識で町の発展に尽くしました。この間、内浦町社会福祉協議会会長、内浦町ふるさと振興公社理事長などを歴任しました。また、ラプロ恋路の建設や福祉施設の充実を図り、住民福祉の向上や地域の発展に寄与しました。

合併協議会では副会長として、また能登町誕生後には町長職務執行者として尽力しました。

田形さんは「46年間地方自治一筋でしたがあつという間でした。わたしを支えてくれたみなさんのおかげです」と感謝の言葉を述べました。



山口彦衛 (やまぐち・ひこえ)

昭和20年10月20日生 笹川

山口さんは、昭和62年4月30日に柳田村長に就任し、閉村までの17年10カ月にわたり豊富な見識と卓越した手腕で村の発展に尽くしました。

この間、柳田日中友好協会名誉会長、ふれあいの里公社理事長、社会福祉法人多花楽会理事長などを歴任しました。また、猿鬼歩こう走ろう健康大会やござ祭りなど多彩なイベントを育て、星空の里・ブルーベリーの里の基礎を作りあげるなど、地域の発展や教育、文化、福祉の向上に貢献しました。

合併協議会では、副会長として積極的・精力的に取り組み、能登町誕生に尽力しました。

表彰を受けた山口さんは「微力ですが、町民の一人としてこれからの町の発展に協力したい」と感謝の言葉を述べました。



役場 組織 改編

地方自治法の改正により、4月1日から助役が副町長になり、収入役が廃止されます。また、行政改革の一環として役場組織の見直しを行い、22課2局8室2支所1出張所から6課削減し、16課2局8室2支所1出張所の体制となります。



変更のあったものは青字で記載してあります。

能都庁舎

総務課 (☎ 62-8510)	行政係、職員係、福利厚生係、消防防災係、選挙係、交通安全係、庶務係、秘書係、行財政改革係
秘書室	
行財政改革室	
小木支所	
鶯川支所	
高倉出張所	
企画財政課 (☎ 62-8503)	財政係、企画調整係、広域行政係、公共交通係、統計係、国際交流係、庶務係
監理課 (☎ 62-8504)	財産係、指定管理者係、入札執行係、庁舎管理係、庶務係
税務課 (☎ 62-8505)	町民税係、資産税係、収税係、収納対策室
環境対策課 (☎ 62-8507)	環境係、衛生係、資源再利用係、施設係、庶務係、 総務係 、 住民係 、 業務係
能都サービス室 (☎ 62-8500)	
会計課 (☎ 62-8509)	会計係、庶務係
農林水産課水産分室 (☎ 62-8508)	水産振興係、庶務係

内浦庁舎

町民課 (☎ 72-2501)	戸籍係、住民係、年金係、庶務係、 総務係 、 業務係 、 情報係
内浦サービス室 (☎ 72-2500)	
健康福祉課 (☎ 72-2503)	健康推進係、社会援護係、障害福祉係、児童福祉係、保育係、老人福祉係、 国民健康保険係 、 老人医療係 、 後期高齢者係 、 介護保険係 、 介護認定係 、庶務係
地域包括支援センター (☎ 72-2513)	
商工観光課 (☎ 72-2505)	商工労働係、観光係、企画振興係、庶務係、深層水活用促進係、特産品開発係
海洋深層水対策室 (☎ 72-2506)	
水道課 (☎ 72-2508)	配水係、浄水係、庶務係
下水道課 (☎ 72-2507)	公共下水道係、集落排水係、浄化槽係、庶務係
学校教育課 (☎ 72-2509)	教育係、施設係、庶務係
生涯学習課 (☎ 72-2510)	社会教育係、青少年家庭教育係、公民館係、施設係、 文化財係 、 生涯スポーツ振興係 、庶務係

柳田庁舎

広報情報推進課 (☎ 76-8301)	広報公聴係、施設係、管理係、放送運営係、 電子自治体推進係 、庶務係
農林水産課 (☎ 76-8302)	農地係、農政係、農畜産係、林業振興係、施設管理係、農業土木係、森林土木係、 水産土木係 、 総務係 、 住民係 、 業務係 、 農業委員会 、庶務係
柳田サービス室 (☎ 76-8300)	
建設課 (☎ 76-8304)	維持管理係、道路建設係、河川砂防係、 港湾係 、 都市整備係 、建築住宅係、庶務係

議会

議会事務局 (☎ 76-8310)	議事係、監査委員事務係、庶務係
病院事務局 (☎ 62-1311)	庶務係、管理営繕係、会計係、用度係、医事係、給食係

人事異動

平成19年4月1日付



※組織再編による課名だけの変更や係の変更だけの場合は省略

- ▼福田政男(議会事務局局長) ▼下野信行(総務課長兼能都庁舎長)
- ▼高雅彦(企画財政課長) ▼坂東裕(広報情報推進課長) ▼谷内正廣(監理課長) ▼元谷猛(税務課長)
- ▼仕明哲(町民課長兼内浦サービ

- ▼清水音雄(総務課高倉出張所長)
- ▼豆田猛(総務課鶯川支所長) ▼大鷲克宏(企画財政課長補佐) ▼滝上雅之(広報情報推進課長補佐)
- ▼桶間実(監理課長補佐) ▼田中孝(町民課長補佐) ▼國盛映子(建設課長補佐) ▼浅井弘之(健康福祉課長補佐) ▼谷内利明(健康福祉課長補佐) ▼高田建生(環境対策課長補佐) ▼高田建生(環境対策課能都サービ

- ▼板井一子(税務課収納対策室主幹) ▼大森凡世(税務課主幹) ▼森下純子(町民課内浦サービ
- ▼新谷ちづ子(社会福祉協議会事務局主幹) ▼池上由美子(社会福祉協議会能都支所主幹) ▼安宅喜一(環境対策課主幹) ▼関本智子(環境対策課能都サービ

- ▼鏡島敏雄(建設課都市整備係長) ▼中橋俊紀(建設課維持管理係長) ▼山下栄治(下水道課公共下水道係長) ▼藤谷みゆき(生涯学習課社会教育係長)
- ▼室石英明(生涯学習課施設係長、満天星) ▼山下安子(会計課庶務係長) ▼藤波芳枝(公立宇出津総合病院事務局医事係長) ▼本谷富美子(公立宇出津総合病院事務局庶務係長) ▼池脇桂子(公立宇出津総合病院事務局庶務係長) ▼川端絹代(公立宇出津総合病院事務局医事係長) ▼川端絹代(公立宇出津総合病院事務局医事係長) ▼平美代子(公立宇出津総合病院事務局庶務係長) ▼下野陽子(公立宇出津総合病院事務局医事係長)

- ▼田下一幸(総務課長) ▼小田宏男(柳田総合サービ
- ▼赤田明(監理課長) ▼新出豊(町民課長) ▼志幸幸三(長寿介護課長) ▼井下勉(建設課長) ▼幸地秀信(水道課長) ▼濱中工(下水道課長) ▼町端一男(スポーツ振興課長) ▼岩前純悦(総務課小木支所長) ▼古谷利夫(能登町社会福祉協議会事務局

能登町障害者福祉計画

基本理念（テーマ）

わかりあい ささえあい そして社会参加
～ ふれあいのまち 能登町 ～

4つの基本目標

①早期療育と学校教育

子どもの健やかな成長を育むためには、障害の早期発見・早期療育の体制が必要です。

成長のあらゆる段階において、障害のある子が個性を発揮し、その能力を十分に伸ばしていけるよう関係機関の協力のもとに、一人ひとりの状況にあった療育指導と保育を実施します。また、学校教育の場においても指導・相談体制の充実に努めます。

③福祉施設の整備

障害者福祉の基本が「施設福祉から地域福祉へ」と比重を移しつつある中、施設整備は抑制される傾向にあります。他方、在宅では介護者の高齢化による「親なき後」への不安がまだまだ解消されておらず、施設サービスに対するニーズがあるのも事実です。

そのため、既存の施設サービスの効果的な利用に努めるとともに、授産施設等の施設整備を進め、障害者が安心して暮らせるよう福祉施設の充実に努めます。

②在宅福祉の充実

障害者福祉の「施設から地域へ」という流れの中で、障害のある人やその家族が住み慣れた身近な地域で生活を送るため、在宅福祉サービスの充実が求められています。

自らの選択・決定の下に、収入に応じた負担でより良いサービスが受けられるよう、障害のある人への情報提供や相談事業を始め、ホームヘルプサービスなどの在宅サービスや日常生活における移動や住まいなどの充実を図り、障害のある人が地域で安心して生活できる環境づくりを進めます。

④生きがいと社会参加

障害のある人が住み慣れた地域で生きがいを持ち、自立した生活を送るためには、経済的な自立と社会への参加が重要な要素となります。そのため、働く意欲を持つ人への就労支援を行うとともに、趣味やスポーツ・学習などさまざまな活動においても社会参加がしやすい環境づくりに努めます。

また、福祉のこころの啓発を行い、ノーマライゼーションの理念を町民に一層浸透させ、町民のボランティア活動への参加を促し、ともに支えあう地域づくりを目指します。

誰もが
この町で
自分らしく
暮らします。

町では、障害の有無に関わらず、誰もが同様に社会の一員として暮らせるような社会をめざす「ノーマライゼーション」の理念に基づき、障害者施策の推進を図ってきました。

障害のある人が、社会の対等な構成員として人権を尊重され、自己選択と自己決定の下に社会活動に参加、参画し、できる限り住み慣れた地域で自立して暮らすことのできる環境の整備が求められています。

誰もが住み慣れた地域で自立した生活を送り、互いを尊重し合い、共に支え合う「共生社会」の実現を目指して「能登町障害者福祉計画」が策定されました。

〈計画の期間〉平成22年度までの5カ年の計画とし、サービス目標を定めてその実現を目指します。

〈計画の策定体制〉本計画の策定にあたっては、アンケートを実施したほか、計画策定に係る組織として「能登町障害者福祉計画策定会議」を設置し、幅広い分野から意見を伺い、計画策定をしました。

〈施策の体系と主な施策〉基本理念に基づき、以下の施策の体系に沿って施策を展開していきます。

1. 早期療育と学校教育

①障害の早期発見とその支援

(1) 乳幼児に対する健康診査および相談・指導等の充実 (2) 障害の早期理解

②関係機関の協力

(1) 療育相談の充実 (2) 情報交換、協力体制の充実

③療育指導の充実

(1) 療育指導の研修

④学校教育の充実

(1) 教育相談の充実 (2) 進路指導の充実 (3) 専門的知識の習得

2. 在宅福祉の充実



①情報提供・相談事業

(1) 情報収集と情報提供の充実 (2) 相談窓口の充実

②在宅サービス

(1) サービス支給決定の透明化 (2) ケアマネジメントの充実 (3) ホームヘルプサービスの充実 (4) ショートステイの充実 (5) デイサービスの充実 (6) グループホームの推進 (7) 放課後児童クラブへの受入の推進 (8) 生活訓練の体制づくり (9) 福祉サービス利用支援の充実

③日常生活サービス

(1) 補装具交付・日常生活用具給付 (2) 障害者生活支援事業の推進 (3) 移動サービスの推進 (4) 住まいの充実 (5) 健康づくりの推進 (6) 訪問看護の実施 (7) 各種福祉手当の支給 (8) 医療費助成制度等の実施 (9) 各種助成制度や利用料の減免

3. 福祉施設の整備

①障害者福祉施設の充実

(1) 身体障害者福祉施設の充実 (2) 知的障害者福祉施設の充実 (3) 精神障害者福祉施設の充実 (4) 授産施設等の充実

4. 生きがいと社会参加

①就労への支援

(1) 雇用の拡大 (2) 人材登録の検討 (3) 就労相談員の推進 (4) 就業や生活の一体的支援の推進 (5) 職親制度の推進 (6) 創業・起業等の支援

②社会参加の推進

(1) 障害者社会参加の促進 (2) 参加しやすい環境づくり (3) 講座型デイサービス事業の推進 (4) スポーツ活動への支援 (5) 生涯学習指導者等の障害者理解の推進

③人にやさしいまちづくり

(1) 障害者団体等と行政のパートナーシップの充実 (2) 緊急時の情報の発信 (3) 災害時における要援護者支援体制の整備 (4) 防災活動の推進 (5) 交通安全教育の実施 (6) 消費者教育の実施 (7) 人にやさしい施設の整備

④福祉のこころの啓発

(1) 地域における障害者の理解の推進 (2) 障害者との交流の推進 (3) 福祉教育の充実 (4) ボランティアの充実 (5) 障害者週間の周知





校舎前に建てられた記念碑の除幕式



校旗を返納する大桐松平くんと小藤萌翔さん

つよく明るく育つ見ら
みんな集まれ岡の上
神野 神野の小学校



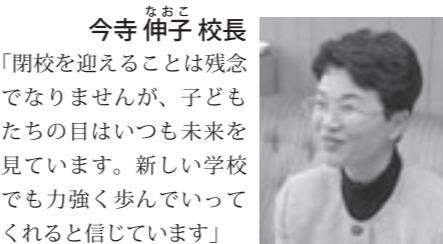
在校生に別れの言葉を伝える卒業生



神野小学校最後の卒業証書を受け取る堂野真莉江さん



記念碑を囲み全校児童で記念撮影



今寺^{なおこ}校長
「閉校を迎えることは残念でありませんが、子どもたちの目はいつも未来を見ています。新しい学校でも力強く歩んでいってけると信じています」



神野小学校閉校式実行委員会
竹内^{けんじ} 委員長
「願わくば残したかった学校。複雑な気持ちでいっぱいですが、地域として新たな気持ちで子どもたちの幸せを願っています」

ありがとう
さようなら
神野小学校

学舎を築立つ日

明治8年に鶴町小学校として設立されてから、131年間の歴史を刻んできた神野小学校。神野地区の文化の中心としての役割を担い、地域のみなさんの愛情に支えられてきたこの学校が、平成19年3月をもって閉校しました。

神野っ子の新しい旅立ち

神野小学校最後の卒業生7人を見送る卒業式は、3月19日に行われました。式では今寺伸子校長から卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡され「みなさんが神野小学校最後の卒業生であることを誇りに思います」とはなむけの言葉が贈られました。卒業生は兄弟のように過ごしてきた後輩たちとの思い出や、温かく見守ってくれた先生や家族への感謝の言葉を伝え、校舎に別れを告げました。

卒業生は中学校という新しい世界へ、また在校生たちも4月からは新しい小学校での生活をスタートさせます。神野小学校の卒業生や在校生にとつて学舎との別れは辛く悲しい現実です。そして地域にとつても、子どもたちの明るい笑い声が聞こえる場所を失うのはとても寂しいことです。しかし、愛しい学舎との別れは新たな仲間たちとの出会いへとつながっていきます。この学校で学んだことを胸に「神野っ子」は自分たちの夢に向かって歩き続けていきます。何年、何十年経っても、目を閉じれば神野小学校での懐かしい思い出はいつでも心によみがえってくるはずですよ。

ありがとう神野小学校

慣れ親しんだ母校との最後の別れとなった閉校記念式典は3月24日に行われ、来賓や卒業生、地区の方、元職員などたくさんの方が集まりました。式典では学校のシンボルとして掲げられてきた校旗を返納し、校舎前に立てられた記念碑の除幕式などが行われました。自然豊かな神野の地で、強く優しい心をもった児童を育んできた神野小学校。子どもたちの新しい門出を祝うという最後の役目を終え、長い歴史に幕を閉じました。

石仏山祭り
オヤマに五穀豊穡を祈願

原始神道を今に伝えるとされる神道地区の奇祭「石仏山祭り」が3月2日に行われました。石仏山は地元で「オヤマ」と呼ばれ、女人禁制の聖域とされています。祭りは、地区の男衆が太鼓を打ち鳴らしながら山を登り、高さ3m、幅60cmの巨石の前で神事を行います。神事のあとは、山を降りて今年の当番6人が他の人をもてなす「食い事」が行われます。御膳に並べられるごちそうは、昔から変わらず赤飯、汁物、鱈のナマス、煮物、尾張大根の5品です。男衆は「これだけ雪のないオヤマ祭りは初めて」などと話しながら、杯を交わしていました。



雪のないオヤマで神事を行う神道地区のみなさん

中野ひろさん 100歳在宅長寿慰問
家族に囲まれて迎えた100歳

3月20日、満100歳の誕生日を迎えた松波の中野ひろさん（明治40年生まれ）の長寿をお祝いしようと、持木町長が中野さんの自宅を訪問しました。町長から花束やお祝い金を贈られた中野さんは「もったいないことです」と感謝の気持ちを表していました。

若いころは稲作や葉たばこ栽培など農業一筋でがんばってきたという中野さん。毎朝かかさず仏壇に手を合わせ、最近はいきいきと通うことが楽しみのひとつだそうです。これからもお体に気をつけて元気に長生きしてください。



遠く県外からもお祝いに駆け付けた家族と記念の一枚

パネルディスカッションで自身の活動を話す数馬さん



半島づくりフォーラム
半島地域の活かし方を考える

全国の半島地域の人たちが集まり、半島ならではの地域づくりを考えるフォーラム「半島地域づくりフォーラム」が、奥能登4市町を会場に2月24、25日に行われました。

24日は、各市町に分かれてのフィールドワークと宮地交流宿泊施設「こぶし」での食談義が行われました。25日は、ラポルトすず（珠洲市）を会場に基調講演や事例報告、パネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、能登半島を代表して数馬嘉雄さん（宇出津）が、能登ならではの取り組みを紹介しました。

完成した「のれん」について説明する山本委員長



ブランドマーク認定商品「のれん」記者発表
深層水のさらなる普及を

海洋深層水を活用し地域産業の振興のために活動している能登海洋深層水協議会は、昨年ブランドマークを制定して、関連商品のブランド力向上に努めています。3月13日、このブランドマークの使用を認定された15業者の店先に掲示する「のれん」が完成し、記者発表が行われました。協議会広報マーケティング委員長の山本一朗さんは「この『のれん』がさらなる認定商品の拡大と、新たな商品の開発に繋がってほしい」とあいさつしました。発表会のあと「のれん」が手渡され、持ち帰った業者のみなさんは早速店先に飾ったということです。

しかたの風 in のと
能登の魚はやっぱり「うまい！」

▶マグロの解体には、たくさんの人だかりができました



▼JAブース前では恒例の餅つき体験が行われ、子どもたちが餅つきに挑戦していました



能登の冬の味覚を味わうイベント「しかたの風 in のと」が2月24日・25日に開催され、2日間合わせて3,500人が訪れました。旧能都町漁協横特設会場にはグルメ屋台30店舗がずらりと並び、観光客らが町の特産品や新鮮な魚介類などを買い求めていました。

炉端焼きコーナーでは買ったその場で海の幸を炭火で楽しめるとあって、家族連れなどたくさんの人たちで賑わいました。時折小雪の舞う肌寒い天候となりましたが、アトラクションでは地元の太鼓やよさこいグループの踊りなども披露され、会場を大いに盛り上げました。

青翔高校モニュメント完成
地域の中の学校として

創立5周年を迎えた青翔高校の入口に、猿鬼をモチーフにしたモニュメントが完成し、3月1日に除幕式が行われました。

このモニュメントは、生徒たちに学校や故郷に対する愛着をもってもらい、夢や目標に向かって努力しようとする意欲を高めてもらおうと企画されたものです。

材料には森林組合から寄贈された柳田産のスギとアテが使われ、能登産業技術専門校の協力で制作されました。校章や校訓のほか、生徒から募集したスローガンが掲示され、地域の人たちにも青翔高校をアピールするものとなっています。



完成したモニュメントを前に記念撮影

「日本人のこころ」と題して作家の辺見じゅんさんが講演しました



生涯学習振興大会
ふるさとの地と人に学ぶ

生涯学習振興大会は3月11日、能都庁舎で開催されました。式典では社会教育功労者表彰や町内中学生を対象に募集した「私が町長だったら」作文の発表・表彰が行われました。

〈社会教育功労者表彰〉乙谷勝雄さん（柳田）名竹英治さん（山中）畠中一雄さん（大箱）

〈私が町長だったら作文表彰〉最優秀賞 奥成加葉さん（小木）水上奈津子さん（能都）脇 胡桃さん（柳田）優秀賞 権谷拓己さん（鶴川）寺越由紀子さん（能都）上結かおるさん（能都）持平弘路さん（小木）六田真理子さん（柳田）